

低リスク者には心臓病のスクリーニングはすべきでない

安静時または負荷心電図、負荷心エコー、負荷心筋血流イメージングによる心臓病スクリーニングで冠状動脈性心臓病のリスクの上昇に關係する所見が得られるが、低リスク者に対し不適切に心臓病スクリーニングが乱用されていることが指摘されている。そこで本研究では、心臓血管病のリスクが低い無症候性の成人における安静時または負荷心電図、負荷心エコー、負荷心筋血流イメージングが死亡または心臓血管イベントを低減するかを検討した。

心臓血管病リスクの低い成人に対する心臓病スクリーニングの便益や害についての系統的レビューやガイドラインを精査した結果、心臓病スクリーニングは予後の改善にはつながらないことが明らかとなった。さらに、偽陽性率が高いために不必要な検査や治療が行われるという有害性が高まることが考えられる。こうした人には心臓病スクリーニングよりも、修正可能な危険因子（喫煙や糖尿病、高血圧、脂質異常症、過体重など）の改善を図り、運動をするよう促すことに焦点をあてるべきである。

出典：Annals of Internal Medicine. 2015; 162(6): 438-447